

令和5年度 第1回魚津市総合教育会議 議事録

令和5年10月2日（火）

16:45～17:45

魚津市役所第1会議室

【出席者】市 長 村椿 晃
教育長 山瀬 敬
教育委員 伊東 潤一郎、山浦 春美、片山 さゆり、松本 修治
事務局 企画部長、教育委員会事務局長、教育委員会事務局参事、教育総務課長
生涯学習・スポーツ課長、教育総務課長代理、学校教育係長
企画政策課長、企画係長

【議事録】

事務局 (企画政策課長)	予定の時間となりましたので、ただ今から令和5年度魚津市総合教育会議を開催いたします。開催にあたり、魚津市長 村椿晃がご挨拶申し上げます。
市長	委員の皆様、本日は、お忙しい中、総合教育会議にご出席をいただき、ありがとうございます。また、日頃から当市の教育に関して真剣に考えていただき、また、アドバイスをいただき、感謝申し上げます。 近年、子どもや教育をめぐる環境は、非常に複雑化しています。本日のメインテーマは、不登校の子どもの居場所についてや、地域でどのように子どもの教育に関わっていく必要があるかなどですが、私たちが、子どもがしっかりと地域で生きていく、これから自分たちの人生をまっとうしていくために、どのような支援をしていけば良いか、本気で考えていきたいと思っています。 皆様から忌憚のないご意見をいただき、一歩ずつ進めていきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。
事務局 (企画政策課長)	それでは、議事に入ります。ここからの議事の進行は、市長にお願いします。
市長	まずは、事務局から協議材料資料の説明をいたします。
事務局 (教委総務課長)	(資料説明) ○不登校児童・生徒の増加について ・魚津市の不登校児童・生徒の出現率は、国・県平均と比べて高い。 ・小学校の統合により、一校当たり児童数は、県内自治体と比べて多い。複式学級を解消するとともに、特色ある教育を実施。 ○高校進学状況について紹介 ○コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）について ・全国では導入が進み、県内でも一部の自治体で導入が進んでいる。 ・魚津市は、令和6年度に全小中学校での導入を目指す。

<p>教育長</p>	<p>○教員の時間外勤務時間の状況について紹介</p> <p>○教育のあり方意見交換会について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 8月27日に高校生、大学生等を対象として実施。 ・ 今後、保護者を対象として実施予定。 <p>○魚津っ子元気プランについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「学校改革・本気支援」「多様化する不登校へのネットワーク支援」「子どもと保護者に寄り添った支援」の三つの柱で取り組みを進めていく。 ・ 不登校対策として、小学校に校内元気センター「すまいる」を全校に設置したい。 <p>不登校への対応は、大きな課題である。義務教育を受けていないという問題もあるが、子どもにとって、この時期に人との関わり合いや居場所がないということは、将来的に大きな影響がある。あらゆる取組を本気でやる必要がある。</p> <p>取組を行うときには、教育の意味を常に考える必要がある。ひとつひとつの事業で考えると方向性が違ってくる。具体的には、子どもひとりひとりが、とにかく元気であることが大事。また、子どもは当然として、教員にとっても、行きがいがある楽しい学校であること。これらを常に意識し、すべての取組をそこに集中し、本当に元気な子どもになっているか目を向けることが教育であり、私達の仕事であると考えている。</p>
<p>市長</p>	<p>教育長の話は、全てに繋がる話。子どもの学びのあり方など、昔と変わっている部分もあると思われるので、どこまでを引き継ぎ、どこを変えていくかという観点からも、皆様のご意見をいただきたい。</p>
<p>伊東委員</p>	<p>教育長の話はよく分かる。教育に対する社会の変化が大きい。インターネットの発達もあり、学校に行かなくても勉強ができる。なので、学校に行って学ぶことの質や内容が大きく変わっていることを、我々は認識する必要がある。</p> <p>そのうえで、学校の役割は何か。経済的な観点からの意見としては、社会に出て活躍してもらいたいと考えている。社会の役に立って、人の役に立って、また子どもを育てる。子どもが大きくなったときに、自立して働いていけるか、ということを、先生も保護者も理解する必要がある。</p> <p>最近、学校に子どもの教育を全て任せている保護者が多くなっていると感じる。先生に怒られることの意味、不登校になることの意味を、保護者も知る必要がある。そのために、保護者と学校がもっとコミュニケーションをとることが大事であると感じている。</p>
<p>市長</p>	<p>親学びの必要性は、10年くらい前から言われている。アプローチの方法についても議論はされているが、踏み込めない部分があるのも正直な話である。学校や教育委員会からの働きかけが難しい部分もあるが、ご指摘の部分に対する問題意識は大きくなっている。</p>
<p>伊東委員</p>	<p>働きかけをしても、本当に必要な人たちは、その場に出てこない。社会全体として、そういう機会を作っていく必要がある。</p>

<p>松本委員</p>	<p>不登校の原因は、いろいろある。例えば、貧困の問題。どのくらいの割合か気になる。デリケートな問題ではあるが、地域ぐるみで、例えば、社会福祉協議会などが関わって、フォローする必要がある。親に余裕がないと、子どもが敏感に感じ取って、無気力になりがちになる。食べるものに困っている子どもには、勉強する余裕や学校に行く気力はない。昔からある問題ではあるが、様々な関係機関が一体となって対策する必要がある。</p> <p>資料の説明にあったが、各学校に相談室みたいな居場所を確保する必要がある。教員の人数の関係もあり難しい部分もあると思うが、必要とする子どもがいる。</p> <p>根本的なところでは、たくましく生きていくうえで、知識よりも知恵をどうやって教えていくかということ。どんなことがあっても、自分で切り抜けて、生きていく力が必要。体験学習やふるさと学習をやっておられるが、とても大事だと思う。こういった体験を組み合わせ、みんなが元気で学校に行ってくれたら良いと強く思う。</p>
<p>教育長</p>	<p>不登校の原因としての貧困の割合に関するデータがない。不登校の要因調査は、実施している。無気力、不安、生活リズムなど、本人に関わる部分が一番多い。次に、友人関係などの学校関係。その次が家庭関係となっており、約1割という感じ。</p>
<p>山浦委員</p>	<p>私は、「すまいる」に行き、情報共有する機会が多い。「すまいる」に通う子は、多い時で50人程度いるが、母子家庭の子どもが約3割～4割を占める。母子家庭が必ずしも貧困とは言えないかもしれないが、家庭環境の影響は大きい。「すまいる」に通えない子どももいて、とても心配している。その対策として、各学校に「すまいる」があるととても良いと思う。</p> <p>一方で、「すまいる」にも行けない、家に引きこもっている子どもへの手立ても考える必要がある。現在は、1週間に1回程度訪問するなどの対応を行っている。</p> <p>また、義務教育が終わった子どもや、何とか高校に入ったが、すぐに不登校になった子どもについて、中学校を卒業した時点で、フォローがされなくなっている。そういう子どもを受け入れる、フリースクールの機関が必要。大人になって引きこもりになる前に何とかしたいと思う。</p>
<p>市長</p>	<p>義務教育を終えたとしても、18歳になるまで、かかわりが必要。中学校を卒業した子どもとの接点などはあるか。</p>
<p>事務局 (教委参事)</p>	<p>「すまいる」に通っていた子どもで、フリースクールや通信制高校に行った子どもたちは、「すまいる」の行事等でつながりがある。その保護者にもネットワークがあり、情報交換を行っている。</p>
<p>片山委員</p>	<p>母子家庭でもきちんと学校に来ている子もおり、本人にも当事者意識が必要。こちらから与えることも大事だが、本人がどうやって解決しながら生きていくかということが大事。与えられるだけでは、解決方法を自分で考えなくなる。皆さんが言っておられた、子どもが元気であること、学校がいきがいのある楽しい場であることを、皆が共通目的をもって考える必要がある。</p>

	<p>人生はトラブルだらけなので、どのように乗り越えていくか、義務教育の間に訓練する必要がある。大人や保護者は、トラブルを回避させることを考えすぎて、子どもの成長の機会を奪ってはいないだろうか。子どもには、トラブルを乗り越えていく力が元々あるので、その力を伸ばすような教育をどのようにすればよいか、という視点も必要だと感じた。</p> <p>義務教育期間は、学校の勉強だけでなく、いろいろな人と関われる大事な期間であり、子どもにとって宝物になって欲しい。本気で向き合って、コミュニケーションをとる必要がある。子どもがどのように生きていきたいかを、大人がサポートできると良い。</p>
市長	<p>片山委員がお話しされた内容は、根本的な課題であり、先生や保護者の方々も何かしたいという気持ちを持っておられると思う。仕組みを作り上げるのが難しい話ではあるが、子育てや人とのかかわりあいの本質的な部分なので、考えていくことが大事。</p>
山浦委員	<p>小学校を統合し、規模が大きくなると、不登校が増えるのは想定内ではあった。このことに対して、どのような対策が考えられるか。</p>
市長	<p>小学校の統合の影響については、良いところも悪いところもあるが、しっかり受け止めて、問題となっている部分を解決する必要がある。</p>
山浦委員	<p>昔、不登校の子どもが少なかったのは、ひとりひとり細かく先生達に見守られて、大事に育てられてきた部分が大きかったと感じる。子どもが、そこに居場所があると感じられていた。今は、大勢の中で自分が認めてもらえない、自己肯定感の低い子どもが、学校が楽しくないと感じているのではないか。それが全てではないが、子どもの居場所作りが必要。皆さんが言うておられた、将来的に生きていく力を育てるという意味では、必ずしも学校である必要はない。</p>
伊東委員	<p>嫌だから不登校になるという子どもが、社会に出ても嫌だから逃げるといふ大人に育つことが怖いと感じる。</p> <p>例えば、シンガポールでは、国のルールとして、不登校を認めていない。人口が少ない中で国を維持する必要があるため。子どもに対し、学校で学びや遊びに加え、社会に出て働くために必要な技術や問題解決のプログラムなどを教えている。魚津で同様の取り組みをしたら良いというわけではないが。</p> <p>資料 18 ページのグループ意見に、子どもの意見も入れた行事運営をして欲しいという意見があった。以前、高校の先生が、子どもが失敗しないように、一生懸命に面倒を見て、なんでも指示したら、行事がうまくいかなかった。子どもが失敗しながらも答えを出していく方がうまくいく。と言っていた。</p>
市長	<p>自分たちで考えて、その結果を受け止めさせる。そういう環境が必要。</p>
伊東委員	<p>瀬戸市で、小中一貫校にしたら不登校が減ったという話を聞いた。今後、小中一貫校を増やすとのこと。上級生が下級生の面倒を見ることで、優しくなってきたとのこと。</p>

市長	<p>「すまいる」に相当する部屋も整備されているとのこと。</p> <p>片山委員がお話しされたが、今は、大人がなんでも与えていて、子どもは、それをしてもらうのが当たり前という気持ちが強くなっているのではないか。例えば、三食の食事。食育にも一生懸命取り組んでおられるが、三食食べさせてもらうことが当たり前ではないこと、感謝することを伝えることが大事。</p> <p>いただいたご意見について、聞きっぱなしではなく、一つでも少しでも形にできるよう、しっかり考えていきたい。お気づきのことや問題意識など、また教えていただきたい。</p>
事務局 (企画政策課長)	<p>皆様どうもありがとうございました。</p> <p>それではこれで本日の会議を終わります。皆さんもどうぞ疲れ様でした。どうもありがとうございます。</p> <p style="text-align: right;">17時45分終了</p>